



卷 頭 言

ゴルフ場と農薬論

保土谷化学工業株式会社 農薬事業部長 今村昌輔

総理府が今年一月に実施した「科学技術と社会に関する世論調査」の結果がまとまった。

この調査目的は科学技術に関する国民の意識を調査して今後の施策の参考とすることであり、調査項目は、(1)科学技術に対する関心、知識 (2)科学技術の発達に対する意識 (3)科学技術に対する評価の3項目に大別される。なお前回は昭和62年に実施されている。

これによると「科学技術に関心があるか」との質問に55.9%の人があると肯定している。この数字は前回の調査と比較するとやや上昇しているが思いのほか少ない。

情報源についても聞いている。「知識をどこから得ているか」(2つまでの複数回答可)との質問に「テレビ、ラジオ、新聞、一般の雑誌」を挙げた人の割合が90.0%と最も高く、以下の「家族や友人との会話等」23.8%を大きく引き離している。更に「科学技術に関する知識は解りやすく説明されれば大抵の人は理解できるか」との質問に56.9%が肯定しており、その割合は前回の調査と比較し上昇している。

この二つの調査結果はマスコミの重要性を実に良く示していると同時に国民に対する責任の重さを表わすものである。

又、科学技術の発達に対する意識調査では「科学技術が発達すると、我々の生活はより健康で快適なものになると思うか」との質問に54.4%の人が肯定しているが日本人の現状を考えると科学の恩恵を享受している割には意外な程、少な過ぎる。

科学技術の発達に伴う不安も聞いている。「進歩が速すぎるため、自分がそれについていけなくなる」との不安を持つ人は58.4%、「悪用されたり、誤って使われたりする危険性が増える」との不安が77.4%、「人間の運動能力や生活能力が低下する」との不安が70.8%となっている。

以上の結果から考察すると国民は科学技術の恩恵をこれ程受けて一応の評価をしながらも、なおかつ不安感が根強い。これが今回の調査の結論と思える。

確かに科学技術は諸刃の剣であり、上手に使用すれば人類は幸福になれるが、使用方法を誤ると人類を不幸にしてしまう。ノーベルのダイナマイト、あるいは原子爆弾の例を出すまでもない。しかし現代社会はかつてない程、科学技術に頼っており、その影響力は増々大きくなっている。従ってこれが感情的で不健全な不安感を持つ方向に進むと人類が造り出した大切な科学技術をつぶしかねない。故に科学技術をより安全で健全な方向に育てるには会社が科学技術に対して持っている不安感を取り除くことが重要である。

その意味で国民の約90%が科学技術の情報源としているマスコミの影響は測りしれない程大きく、ここ数年のゴルフ場農薬、とりわけ除草剤に対するマスコミの態度は大部分が前者の方向一辺倒の感があり偏見に満ちている。科学技術が人類の生存という地球規模の問題に関連している現在、農薬業界にかかわっている我々は断固とした姿勢で歪んだ姿勢を示すマスコミに立ち向わねばならない。